

## コムギ赤かび病の防除を適期に行いましょう！

[現在の状況]

- ① 3月下旬現在、農業研究所および病害虫防除所の調査圃場におけるコムギの予測出穂期、赤かび病の予測防除適期を表1に示した。
- ② 4月4日発表の気象庁の気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されている。今後の気温が平年より1~2℃高く推移した場合、表1に記載した出穂期および防除適期は2~6日早まる可能性がある
- ③ 3月の低温により幼穂が凍害を受けた圃場では、不稔粒が発生することで赤かび病に感染しやすくなっているおそれがある。

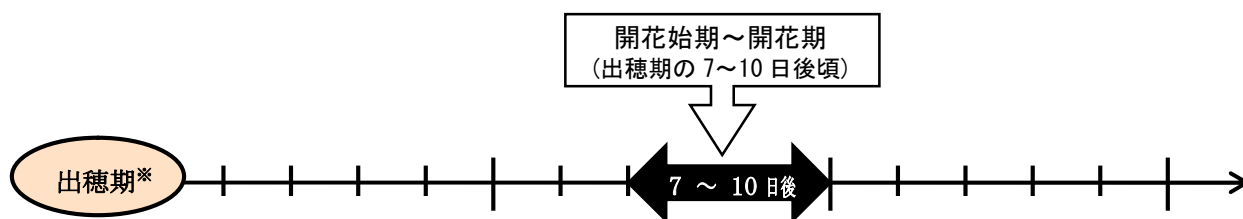
表1 コムギ（さとのそら、きぬの波、ゆめかおり）の予測出穂期による赤かび病の防除適期の予測  
(令和6年3月29日現在)

品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期	予測防除適期 <sup>3)</sup>	
さとのそら <sup>1)</sup>	県央	水戸市上国井町	11/ 6	4/17 <sup>4)</sup>	4/24~4/27	
			11/20	4/24 <sup>4)</sup>	5/ 1~5/ 4	
		龍ヶ崎市大徳町	11/ 9	4/12 <sup>4)</sup>	4/19~4/22	
			11/21	4/14 <sup>4)</sup>	4/21~4/24	
	県南	つくば市大形	11/14	4/17	4/24~4/27	
			つくば市杉木	12/14	4/29	5/ 6~5/ 9
			つくばみらい市市野深	11/29	4/22	4/29~5/ 2
	県西	結城市結城	11/15	4/20	4/27~4/30	
			下妻市高道祖	12/ 3	4/30	5/ 7~5/10
			桜川市真壁町原方	12/10	5/ 1	5/ 8~5/11
八千代町高崎			11/10	4/15	4/22~4/25	
きぬの波 <sup>2)</sup>	県西	常総市三坂町	11/20	4/17	4/24~4/27	
		筑西市西榎生	11/21	4/21	4/28~5/ 1	
		桜川市加茂部	11/20	4/30	5/ 7~5/10	
ゆめかおり <sup>1)</sup>	県西	筑西市西榎生	11/27	4/30	5/ 7~5/10	

- 1) 「さとのそら」および「ゆめかおり」の出穂期は、農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による茎立ち期、幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いて予測した。各調査地点付近のアメダス観測所（日平均気温）は、予測計算日前日までの実測値および予測計算日以降の平年値を用いた。
- 2) 「きぬの波」の出穂期は、「令和5年度茨城県主要農作物等奨励品種特性表」に基づき「さとのそら」と同日として1)と同様に予測出穂期を算出した。
- 3) 予測防除適期は、出穂期の7~10日後とした（図参照）。
- 4) 農研速報（3/18、3/29発行）のデータを用いた。

[防除対策]

- ① コムギの赤かび病の防除適期は、開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）である（図）。予測される出穂期および防除適期は播種期や今後の気温の推移によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。
- ② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、降雨日とその翌日か湿度 80%以上の日」である。飛散好適条件が続く場合や不稔粒の発生が懸念される場合は、1回目の薬剤散布 7～10 日後に 2 回目の散布を行う。
- ③ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する（表 2）。また、2 回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。



※出穂期：圃場全体の 40～50%が出穂した日。

図 コムギ赤かび病の防除適期

表 2 コムギ赤かび病に登録のある主な薬剤 (令和 6 年 3 月 27 日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人航空機による散布」の適用 <sup>1)</sup>	FRACコード <sup>3)</sup>
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	無 <sup>2)</sup>	1
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	有	
ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	3
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	有	

- 1) 使用方法「無人航空機による散布」においては、希釈倍数等が表中の内容と異なるので十分注意する。
- 2) トップジンM水和剤と有効成分が同じであるトップジンMゾルは、使用方法「無人航空機による散布」の適用がある。
- 3) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。

(注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。